

水平線のムコウ ～Over the Horizon～

元領事のつれづれ話

栃木県国際交流協会 参与 石塚勇人

(第9回：2020年7月)

オリンピックの開催 (アテネでの経験から その2)

前回は、アテネオリンピック前のアテネやギリシャの状況などを見てきました。今回は、大会1年前から開会にこぎつけるまでの推移を見ていきます。

開催1年前のアテネ

2003年も半ばを過ぎてオリ・パラ開催まで1年を切った頃には、IOCや世界各国のNOC(国内オリンピック委員会)関係者が頻繁に来訪、日本からもJOCなどのオリンピック関係者による事前視察が行われるようになりました。因みに、この年の6月には当時の野球日本代表の長嶋監督が競技会場視察のためアテネを訪問され、大使館にも顔を出されています。

この年の後半には、各国のオリンピック関係者、日本を含む外国メディアが続々アテネ入りして外国人の姿が日常的に多く見られるようになり、街中でもオリンピックの雰囲気徐々に感じられるようになりました。その一方で、競技施設等の工事の進捗は相変わらず遅々としたものでした。筆者は、当時危機管理を担当していた関係からアテネの米国大使館員と情報交換なども行っていましたが、米国も工事の進捗を懸念していたことをよく覚えています。

オリンピック・イヤー

2004年が明けると状況は一変し、一気にオリンピックモードに突入します。遅れていた競技施設の工事も急ピッチで進み始めます。例えば、マラソン・コースの道路拡幅



女子マラソン ゴールシーン
野口選手

工事は年が明けてからいきなり始まり、スタート地点のマラソンの村から約20キロもの距離の片側1車線道路が、わずか半年で2車線の道路に生まれ変わりました。また、3月、4月に工事が終わった多くの競技場では、完成を待っていたように多くのテスト・イベントが開催され、そのために各国から競技団体の選手、関係者がアテネに集結して、活況を呈し始めます。

5月を過ぎると、街中ではオリンピックのTシャツを着たボランティアの姿が多く目立ち始め、選手村と競技場をつなぐ道路にはオリンピック競技関係者専用の優先路が設けられ、市内の1,500カ所以上にセキュリティのための警備カメラが設置されるなど、ぎりぎりではありましたがオリンピックに向けての準備が整っていったというわけです。余談ですが、アテネオリンピックは9.11米国同時多発テロ後に初めて開催された夏季オリンピック（冬季オリンピックは2002年にソルトレークで開催済）とあって、警備には米国が全面的に協力して体制を構築。市内主要箇所の警備カメラ設置もその一環でしたが、行動を監視されているようだといって市民には不評だったようです。

いずれにせよ、何とか帳尻を合わせて準備が整いました。普段は、「明日のことは明日になってみなければわからない」といったギリシャ人気質ですが、この時ばかりは「ギリシャ人もやる時はやるものだ」と思ったものです。もっとも、メインスタジアムは開会式の数日前まで工事が行われるという綱渡りの開幕でしたが…

日本人観光客

ギリシャは、ヨーロッパ最古の文明が発祥した古代ギリシャ、東ローマ帝国当時の遺跡や遺構などの豊富な世界遺産、風光明媚なエーゲ海の島々などがあることを背景に、1年を通じてヨーロッパやアメリカ等から多数の観光客が訪れる世界有数の観光国です。特に、オリンピック・イヤーである2004年は、オリンピック発祥の地として例年にも増して多くの外国人が世界中から訪れていたように感じられました。

日本人観光客については、アテネは日本からの直行便がないため、普段はそれほどに多いというわけではないのですが、この年はオリンピック・ブームにも乗って多数の日本人が観光やオリンピック観戦にギリシャを訪れていることが見てとれ、現地の日系旅行会社からも、いくつものツアーが組まれていたとの情報も得ていました。

1つのエピソードですが、日本人観光客による想定外の事件が起きました。古代オリンピックの聖地であるオリンピアの遺跡で、日本人が重さ5キロもある遺跡の石をバッグに詰めて持ち去ろうとした事件が起きたのです。筆者は、ギリシャの警察当局から電話で事件の通報を受けました。オリンピア遺跡は、オリンピックの聖火が採火される場所としても有名ですが、日本人観光客が世界遺産の遺物を持ち去ろうとした前代未聞の重大な犯罪に、大使館としては、急遽、HPやオリンピック観戦に訪れる観光客向けのパンフレットで、注意喚起の情報を発信しました。当の本人は、相当に多額の罰金を支払ったと記憶しています。

また、オリンピックの関連で実施されるカルチュラル・オリンピアードという文化プログラムがありますが、アテネではその1つのイベントとして、日本人演出家の蜷川幸雄氏によるギリシャ悲劇「オイディプス王」の上演が、オリンピック開会の1か月前に伝統あるアクロポリスの野外円形劇場で3日間にわたり行われ、現地の観衆、メディア

に大絶賛されました。この上演は、現地での前評判も高く、日本でも大きく取り上げられていましたので、これも日本人観光客の増加に一役買ったことは間違いないと思っています。

今回は、オリンピックの機運が盛り上がるに至った当時のギリシャの状況と、オリンピック後の状況について観察し、オリ・パラのレガシーとは何だったのかを見ていきたいと思います。

つづく

(公財) 栃木県国際交流協会 参与 石塚勇人 (略歴)

1977年外務省入省。外務本省では主に経済協力局、国際協力局で途上国の開発協力を担当。海外勤務歴は、在イスラエル大使館に始まり、在アンカレッジ総領事館、在モントリオール総領事館、在連合王国(英国)大使館、在南アフリカ大使館、在ギリシャ大使館、在ドイツ大使館、在インド大使館、在ニューヨーク総領事館の9公館で計29年間。ギリシャ、ドイツ、インドの各大使館で領事班長を歴任。在ニューヨーク総領事館領事部長を最後に2019年3月退官。同年5月より現職。